



朝日新聞 昭和十六年一月二十七日 水曜 第一三二二号

英米兩巨頭史の會見

極秘ABC R軍事會議

十四日以來十日間連續

北阿佛領モラウカカランカセ七日國際通信所報に據れば大統領ロースベルトは英國首相チヨウキルとの北阿會談の爲め同地に飛來し一九四三年度の対極軸作戦を協同した西巨頭とも極軸の根絶を期し妥協的平和克復を排して無條件降伏まで戦争を熾めんと決定したと報じた

この十日に亘つた極秘會商は赤露スライリに並に將介石と密接なる通信を交換しつゝ終つたものでABC R會議の形式を調へたものであるが之に附隨して豫慮案となつてゐるシラウデゴール西佛將軍の會見あり又西將は夫れ々々大統領及首相に謁見する機会を得た。梗概は次の數項である。

會を作るべく英米積極的協力する又曰援將供給も積極化して支那事變第六年度に於ては終に日本の攻勢を破壊し得るまで繼續する等と共に全面的に四獨逸日本及伊太利に對する東西兩球上の各戰區に攻勢的軍隊を派遣して一舉に極軸の殲滅を期し妥協的平和提唱に専心せず徹底的に上記三國共無條件降伏を乞ふ來るまで戦争を繼續すこの歴史的會見は一月十四日に開始され毎日十八時時間平均に英米西巨頭と軍部並に民政代表との會合が續いたものであるが陽光直射する銀色のスライリを凡そ嚴肅なる軍隊敬言備中は大統領は放送を以て北阿及全歐に声明した大統領は顧問ホアキスを同伴したか後は遣米レンドリース使節ハリマンも参加して往復艦上を飛行した。

兩巨頭會見の場面

暗水の冬加を許され人々々右劇的巨頭會見の舞臺はカカランカ郊外の空軍司令部のスタウツハウスで佛國式別荘型の白重館であつて遠く米國を連想せしめる大西洋面青の海岸を背景とし舞臺の上方は三重五重の宛然インタニキヤンプの如くハブワイヤを引又廻はし其ワイヤには千シキヤを恰も第三大隊の野草畑の鳥骨し如く無數た

釣り上げたる一の侵入者を防ぎ英米の精銳を以て十重三十重に嚴重なる警固軍隊が駐屯してゐる此暗水の舞臺に參加したる面々は

- 聯合軍元帥候補 マーシャル將軍
- 米國航空司令官 アイニルト提督
- 米國軍供給司令官 ガーヘル將軍
- 米國駐在英使館附 ネル卿將軍
- 英國軍司令部 ブルック卿將軍
- 英國海軍代表 パウレト提督
- 英國航空司令官 奇ールス提督
- 英國航空軍司令部 ホーナル提督
- 英國々防官 イスメイ將軍
- 等々の華やかなる武官綺羅回生の如く又會期中禮訪せし大官中左の人々を合衆米國軍司令長官 アゼンクワ將軍
- 英國軍司令長官 アレキザンダー將軍
- 大統領特使 マン駐阿大使
- 聯合軍艦隊司令官 カニングハム提督
- 聯合軍航空總司令官 スパーツ將軍
- 尚ほ舞臺上に紅一点アマタソン夫人が秘書係りとして場内活躍を見せ大統領自心エリットロウベルト中佐は出征以來初の女子對面といふ風激的場面も描かれた

東京之龍後傳説

カールスとワックルと中尉といふは昨春東京空龍に參加して負傷してゐるが最近草野に歸還した同中尉の談

片を市俄古國際通信員が報道したか、最初東京附近の海岸に到着した時は思ひ切つて低空飛行し附近の日本人は敵機と知らずに身を振り接撃した。東京市に入ると急騰一千五百呎上空より投弾した目標は化學工場と鐵道とであつたがセロ型機六台が機の上になり宮城は命令を現はなした其後海上に落ちたものを支那苦力に救はれたものであるといへ他を語るす。

同名異人フリン及びブリツヂ

濠洲産にして米國に歸化せんとし第一歸化證を所有してゐる赤党ハリートブリツヂと、ニエーハムフレイ選出上院議員にして濠洲大使の候補たるべく自認してゐる同名のブリツヂと更に聖林で少女汚漬嫌疑を裁判中のエールワレンと最近大統領が推薦して議會の問題となり前記上院議員ブリツヂの反對の爲審問中のエドワードフリンとの同名異人四人の連鎖は大抵の米國人の錯覺を起さしめ一般は全く無関係状態となつて幾度説明しても判然としなげ程興味を失つたと記者團が報じた。

印度人の皮肉

印度人時報は英國が宣傳用に刊行せる印度人關係五事蹟中に印度人は世道を取負困者なる一項を加ふべしと評した。

